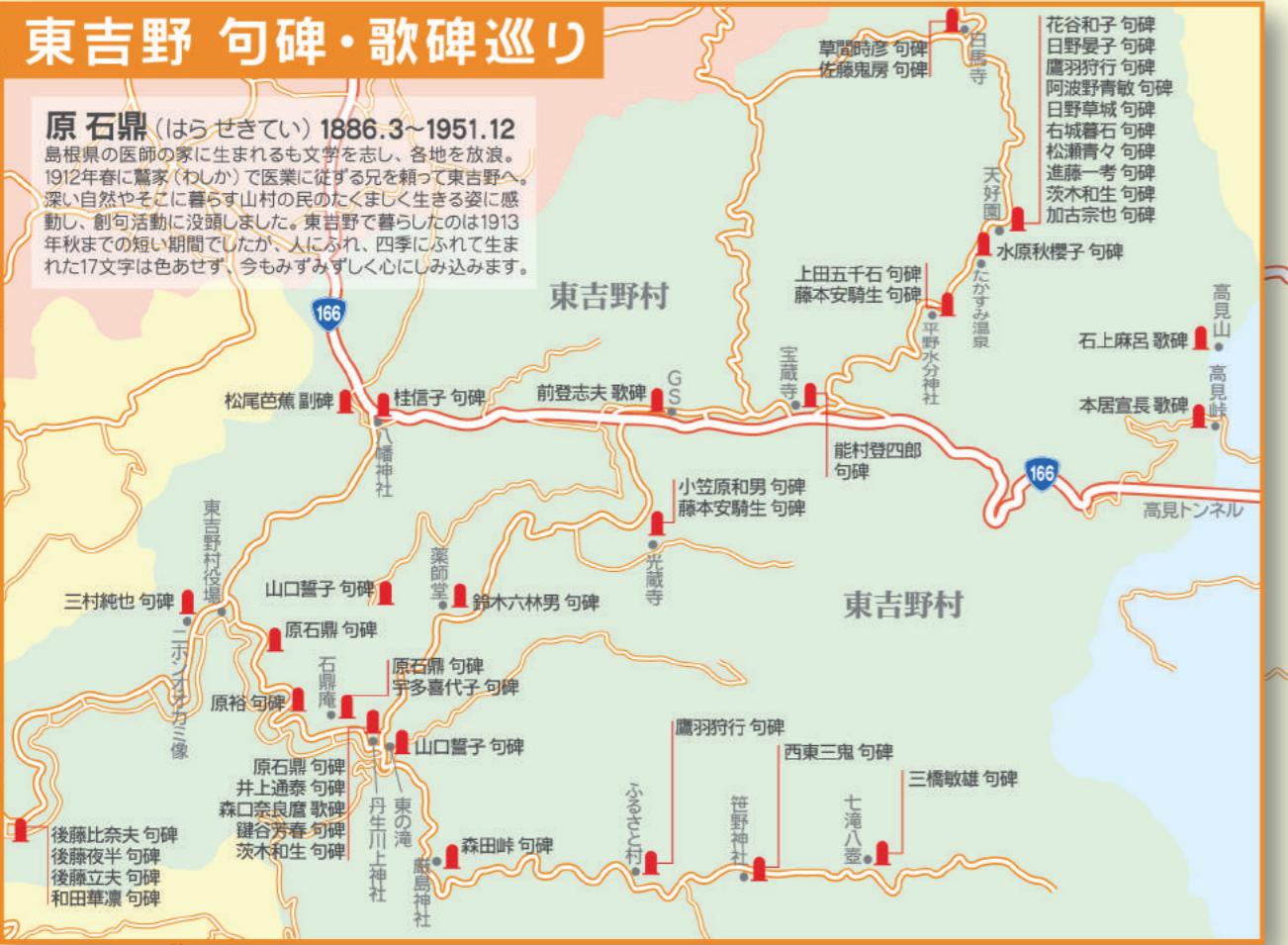


東吉野 句碑・歌碑巡り

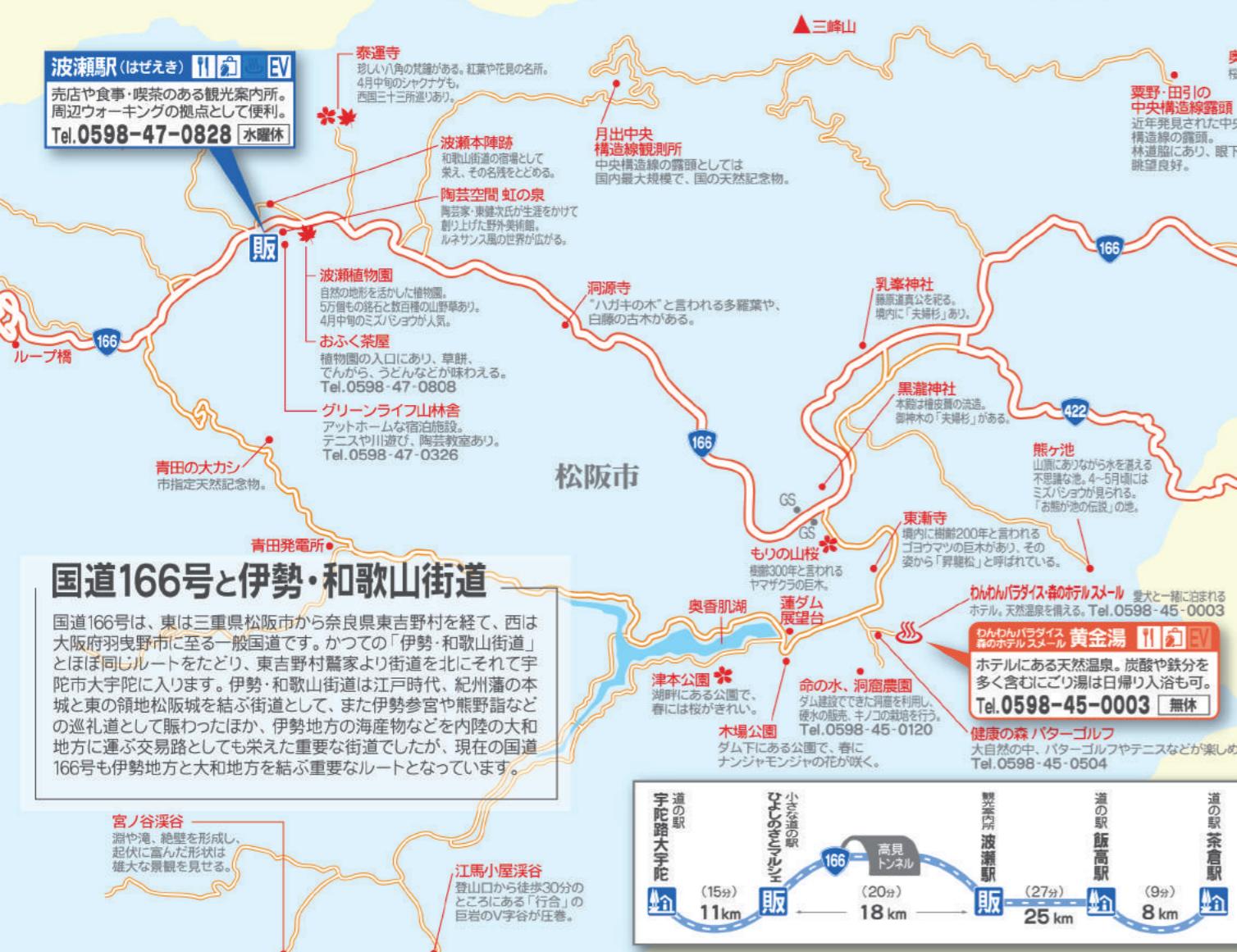
原石鼎(はらせきてい) 1886.3~1951.12
島根県の医師の家に生まれる文部省を主に各地を放浪

島根県の医師の家に生まれるも文字を志し、各地を放浪。1912年春に驚家(わしか)で医業に從事する兄を頼って東吉野へ。深い自然やそこに暮らす山村の民のたくましく生きる姿に感動し、創句活動に没頭しました。東吉野で暮らしたのは1913年秋までの短い期間でしたが、人にふれ、四季にふれて生まれた17文字は色あせず、今もみずみずしく心にしみ込みます。



波瀬駅 (はぜえき)   

売店や食事・喫茶のある観光案内所。
周辺ウォーキングの拠点として便利。
Tel. 0598-47-0828 水曜休



国道166号と伊勢・和歌山街道

国道166号は、東は三重県松阪市から奈良県東吉野村を経て、西は大阪府羽曳野市に至る一般国道です。かつての「伊勢・和歌山街道」とほぼ同じルートをたどり、東吉野村藩家より街道を北にそれで宇陀市大字陀に入ります。伊勢・和歌山街道は江戸時代、紀州藩の本城と東の領地松阪城を結ぶ街道として、また伊勢参宮や熊野詣などの巡礼道として賑わったほか、伊勢地方の海産物などを内陸の大和地方に運ぶ交易路としても栄えた重要な街道でしたが、現在の国道166号も伊勢地方と大和地方を結ぶ重要なルートとなっています。



東吉野村

日本の歴史のまち「」

日本の歴史のまち「東吉野」 東吉野村には、南北朝時代の豪族・小川氏、や、明治維新のさきがけとなった天誅組（てんちゅうぐみ）に関する歴史が残っています。また、深吉野を愛してやまなかった俳人・原石鼎（はら せきてい）ゆかりの地でもあり、村では俳句の里づくりを行い、多くの句碑が建立されるなど、奥深い文化を感じられます。

歴史上で東吉野の地が登場するのは日本書紀にまでさかのぼり、神武天皇が大和平定のために丹生川上で戦勝祈願を行ったことが記されています。その丹生川上の地が東吉野村大字小（あむら）の丹生川上神社付近で、古代の聖地として神武天皇聖蹟（せいせき）の碑が建立されています。また、続日本紀などによると、丹生川上神社には古来、祈雨・止雨祈願のため朝廷が奉幣（ほうへい）を行っていたことがわかります。そして、室町時代には、丹生川上神社の神主であった小川弘光が神璽（しんじ）奪還事件で活躍し、幕末には天誅組終焉の舞台となりました。

このように東吉野村には日本の歴史に関わった出来事が多くあり、今も歴史の薫りを漂わせています。

天誅組（てんちゅうぐみ） 幕末の文久3（1863）年、尊王攘夷を掲げて、中山忠光、吉村寅太郎、藤本鉄石ら39名からなる「天誅組」が決起しました。彼らは、京都から大和に入り、幕府天領の五條で代官所を襲撃。しかし、その翌日、京都で政変が起り、天誅組は幕府から追われる立場になりました。五條から十津川、大峰山系を東へ北へと逃れ、たどり着いたのは東吉野村。包囲する追討軍に決死隊が斬り込み、中山、吉村ら本体の脱出を期すも、次々と追討軍の銃弾に倒されました。志士たちの遺体は、村人によって埋葬されたといいます。その後、明治20（1887）年、天誅組の生き残りで当時大審院判事の北畠治房の尽力もあって、奈良県が誕生。明治22（1889）年には、後に合併して東吉野村となる小川村・高見村・四郷（しごう）村が発足しました。一方、明治政府は尊王の志士に対して、贈位と靖国神社への合祀を実施。東吉野村でも天誅組志士らの慰靈碑建立や顕彰活動が展開されました。ここには、時代の夜明けを望んだ夢とともに、若き志士たちが静かに眠っているのです。

松阪市 飯高町・飯南町

香肌峡県立
自然公園

自然が香るまち「香肌峠」
香肌峠は、この地域が
昔からお茶やシタケ
鮎など、香り高い産物に恵まれていたことから名付けられたと伝わります。
櫛田川とその支流に沿って広がる新緑や紅葉の美しさ、ツツジやヤマユリ
ニホンカモシカなど豊かな自然にあふれています。
古くは、奈良と伊勢とを結ぶ参宮や巡礼の道として栄え、現在は大阪、奈
良と松阪、伊勢を結ぶ観光道として多くの車が行き交うほか、全国屈指の
神秘的な景観を有する山々や渓谷の秘境巡り、登山やハイキング、サイク
リング、カヌーなどのアウトドアリゾートとしても注目されています。

